

## 海外安全対策情報（平成30年度第4四半期：平成31年1～3月）

### 1 社会・治安情勢

1月、カーマ前大統領の右腕とされるアイザック・コシ元情報保安局局長が、汚職に関する疑いで当地空港で休暇から戻ったところを逮捕され、大変大きなニュースとなった。また、マシシ大統領とカーマ前大統領の確執は和解できないほど深刻な状況となっており、これが与党BDP内部に大きな影を落とし、4月5日にボツワナ西部の街カンで特別総会を開催し本年10月の総選挙に向けたBDPの大統領候補を選出する予定であるものの、BDPの内部対立は一向に収束がつかない状況である。反マシシ派BDP国会議員は離党をほのめかし、野党と協働してマシシ大統領に対し不信任決議案を提出する動きがある。4月5日のBDP大統領候補者選挙はマシシ派、反マシシ派のどちらが勝っても、敗北した側がどのような行動に出るか不透明である。したがって、4月5日は今後の政局及び社会情勢を占う上でのターニングポイントになることが予想され、4月5日以降は様々な混乱が予測されるので、BDP内部の動向には特に注意していく必要がある。

### 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 正確な統計、犯罪の傾向等は発表されていない。犯罪発生件数は高い水準で推移しているとみられ、引き続き注意が必要である。

#### (2) 邦人被害事案

邦人の被害は確認されていない。

#### (3) 邦人以外の被害事案

首都ハボローネより車で1時間のモホディザーネ警察管轄エリアで、夜間中国人男性が店舗を閉めようとした際に、2人の男が現れ銃で撃たれる事件や家に帰るビジネスマンをつけて、威嚇射撃をした上で金品を要求する強盗銃撃事件が複数起きている。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件に相当する事案は確認されていない。

### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人の被害は確認されていない。

### 5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情は引き続き良好で、大きな変化はなく、日本企業が犯罪の標的とされる可能性は低いと考えられる。